



令和5年度がスタート

令和5年4月10日（月）に着任式・始業式、12日には入学式を終え、いよいよ令和5年度が本格的にスタートしました。着任式では14名の新しい先生方を、入学式では181名の新入生を迎え、新2年生168名、新3年生162名、合わせて全校生徒511名で新年度を迎えました。2・3年生の保護者の皆様におかれましてはお子様のご進級、新入生



【学級担任発表・先生方紹介の様子】



【入学式の様子】

の保護者の皆様に

おかれましては、改めて歴史と伝統のある木更津第二中学校へのご入学、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

全教職員が責任と覚悟を持って生徒一人ひとりが充実した中学校生活を送ることができるよう教育活動に邁進していく所存です。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

職員紹介

校 長		教 頭	教 務 主 任	生 徒 指 導	養 護 教 諭	事 務 長	副 主 査	市 務 員	学 年 主 任	1 年 1 組	1 年 2 組	1 年 3 組	1 年 4 組	1 年 5 組	副 担 任	日 本 語 指 導	8 組 担 任	心 の 相 談 員	読 書 相 談 員	初 任 者 指 導	A L T
山元 竜二	池田 秀一	永谷 聡	川越 英二	森田 妙子	西原 和子	上野 直子	中澤 恵	渡邊 明宏	時田 岳亮	川崎 恵里佳	沢田 光	阿部 輝希	福澤 拓	小林 剛志	前田 凜太郎	高橋 秀実	永島 すみ江	縄谷 裕子	石橋 直子	吉沢 信之	メアリー・サンシャイン・ビラゾン

今年度1年間、どうぞよろしくお願いいたします！

学 年 主 任		2 年 1 組	2 年 2 組	2 年 3 組	2 年 4 組	2 年 5 組	副 担 任	副 担 任	6 組 担 任	学 年 主 任	3 年 1 組	3 年 2 組	3 年 3 組	3 年 4 組	副 担 任	副 担 任	7 組 担 任	適 応 教 室	カ ウ ン セ ラー
在原 洋一	鹿野 和樹	中嶋 啓太	小原 美菜	金田 明奈	林 正弘	林 暁彦	井上 航	内藤 成嗣	市原 靖子	菅野 元治	久保田 諒	鹿島 美咲	時谷 肇	川名 貫斗	岩崎 幸子	小倉 里湖	中務 公明	伊藤 忍	カ ウ ン セ ラー

電子版「学校だより」へ移行のお知らせ… 令和5年度から、限りの資源の有効活用またはSDGs等の観点から、学校だよりをホームページに電子版として掲載し、ペーパーレスとさせていただきます。次号、木二中だより「INSIDE OUT No.2」よりホームページで公開いたします。

◇学校教育目標について◇

人間性豊かで、主体的に生きる生徒の育成

～ 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 ～

一に人柄・二に体力・三に学力

木更津第二中学校の学校教育目標は、左記のとおりとなります。国内外の社会情勢が不確実で激しく変化を遂げていく中であっても「不変的価値のあるもの」、それは「人間性豊かな心」【徳】の他に

ありません。未曾有の感染症が人々の交流を遮断し、分断したとはいえ、人の心まで蝕むことはできなかった。それは、人が人を思う心があったからだと思えます。

また、この激動の社会を生き抜いていくためには、予想外のどんな変化が訪れようと、その変化を柔軟に受け止め、主体的に生き抜く力が必要であると考えます。自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、主体的に表現・行動しながら課題解決を図る資質・能力【知】とともに、その礎となる丈夫で逞しい、健康な心身と体力【体】をそれぞれの発達段階に応じて調和を図りながら育んでまいります。

【4月17日以降の行事予定】

- 17日（月）安全点検日
 - 18日（火）全国学力・学習状況調査（3年）
全校評議会
 - 19日（水）専門委員会
 - 20日（木）身体測定 君研
 - 21日（金）授業参観
 - 24日（月）家庭確認①
学年集金日①
 - 25日（火）避難訓練（地震）尿検査一次①
家庭確認②
 - 26日（水）尿検査一次② 家庭確認③
 - 27日（木）部活動正式入部
 - 28日（金）眼科検診（1年）
- ※完全下校は17：30となります。

【木二中ライフ集会】

13日（木）の5校時に学校生活の約束事（木二中ライフ）について全校生徒が体育館に集まって確認する集会が行われました。感染症により集会ができなくなって以来、全校生徒が体育館に集まるのは初めてとのこと。安心・安全な学校生活を送るために大切な「最低限のルール」が全校生徒に伝えられました。



【令和5年度 木二中学校だより「INSIDE OUT」について】

今年度、木更津第二中学校の学校だより「INSIDE OUT」というタイトルをつけました。インサイド・アウト（またはインサイド・アウト・アプローチ）の考え方は世界的に有名なスティーブン・R・コヴィー著「7つの習慣」の中で中核となる考え方として記されています。現在、様々な企業においても事業戦略として多く取り入れられているとのこと。簡単に言えば、事業（学校）を運営していく上で、問題が発生したり、うまくいかなかったりする原因を環境や他人などの外的要因に求めるのではなく自身（学校）の内面や言動を変えていくことで課題解決・改善を図っていく、という考え方です。

学校が課題を解決するには保護者や地域のご協力・ご支援が必要だ、と言うなら、学校の教育方針や学校で行われている教育活動を広くインサイド・アウト、つまり中から外へ発信し、深い理解を獲得していかなければならないのではないかと解釈しています。